

こども食堂向け 新型コロナウイルス 感染症対策 安全・安心自己点検シート

制作・発行：認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ（理事長・湯浅誠）

制作協力：藤岡雅司（小児科医・ふじおか小児科院長・富田林医師会理事・日本外来小児科学会副会長・日本小児科医会理事など）

：森内浩幸（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学教授・日本小児科学会理事・日本小児保健協会理事・日本小児感染症学会理事・日本ウイルス学会理事・日本臨床ウイルス学会幹事など）

後 援

日本小児科学会・日本小児科医会・日本外来小児科医会

本シートの使い方

- ・24項目すべてのチェックがいたら、「感染症対策宣言マーク」を会場やチラシ等でお使いいただけます。
- ・サイトから送信すると、団体名の入った「感染症対策宣言マーク」を発行し、後日メールにてお送りします。

『新型コロナウイルス対策緊急プロジェクト特設ページ』

▶ <https://musubie.org/corona/>



・本シートの目的は、こども食堂の運営を「縛る」ことではありません。こども食堂は、それぞれの運営者の判断で開催・休止されるべきもので、誰かに運営方法を指図されるべきものではありません。同時に、新型コロナウイルス感染への懸念も強く、「ボランティアの運営団体・個人がリスクを背負い切るのは難しい」「周囲の理解が得られない」との声も多く聞かれます。そのため「お役に立ちそうならどうぞご利用ください」というスタンスで作成されたのが、本シートです。

・個々のこども食堂の自由で主体的なご判断に基づいて、ご利用いただければ幸いです。

感染症対策宣言マークを
ダウンロードしてお使いいただけます。



1 子どもの新型コロナウイルス感染症についての正しい知識を持ち、必要に応じて説明できる

新型コロナウイルス感染症について以下の最新情報を確認した。

* 定期的に確認しましょう！

(1)



■厚生労働省

(1) 新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

(2)

(2) 新型コロナウイルスに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html



■日本小児科学会

(3) 新型コロナウイルス関連情報

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=333

(3)



小児の新型コロナウイルス感染症に関する以下の点について理解した。

- ・小児の感染者の多くは成人（家族、教師等）からの感染である。
- ・小児は感染しても軽症であるか、発症しにくい。国内での死亡例は報告されていない。ただし基礎疾患のある小児では注意が必要である。
- ・学校や保育所等における集団発生（クラスター）報告はあるが多くはない。小児が発端者となっている事例はさらに少ない。
- ・長期間の一斉休校・休園、受診抑制、成人のストレスは小児の心身に悪影響を及ぼす。生活環境の変化に伴う不定愁訴の増加や受診抑制に伴う健康被害が報告されている。

2 参加者の安全はもちろん、周囲の安心にも配慮した運営を行っている。

むすびえ制作・小児科医監修の「こども食堂・フードパントリー開設簡易ハンドブック」（改訂版）を読んで、内容をよく理解した。

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/12/kansensyo_kannihandbook_211207.pdf



開催告知に際し、以下に該当する人は参加を控えていただくよう事前に十分に知らせている。

- ① 感冒症状等で体調がすぐれない人
- ② 熱のある人（小児：37.5℃以上、成人：37.0℃以上）
- ③ 同居家族や職場などに「濃厚接触者」や「健康観察対象者」がいる人
- ④ 2週間以内に海外から帰国した人及びその同居家族
- ⑤ 基礎疾患（心臓病、糖尿病、呼吸器疾患など）のある成人

12歳以上の参加者に対して、自身を守るため、また他の参加者を守るために、ワクチン接種を推奨している。

- 小学生以上の参加者、スタッフにマスク着用の徹底を周知し、着用していない場合は配布等に努めている。
- 全員に対して体温測定（可能な限り非接触体温計を用いる）と健康確認を行っている。発熱（小児：37.5℃以上、成人：37.0℃以上）、感冒症状等で体調がすぐれない場合は参加させないことを周知・徹底している。
- 全員に対して擦込式アルコール消毒液による手指消毒を行なっている。乳幼児の場合は付添いの成人が擦込むようにしている。
- 共用タオル等を使用しないなど、衛生管理を徹底している。
- 不特定多数の参加がある場合は、参加者名簿を作成している。
- 参加者の安全はもちろん、周囲の安心にも配慮した運営を行っている。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを推奨している。
- 人数制限や時間制限などを行い、三密を回避している。
- 使用済みマスク、ごみ等は、ビニール袋等に密閉して捨てるよう徹底している。
- 清掃・消毒・ごみ回収は手袋・マスクを着用し、手洗い・手指消毒を徹底している。
- 高校生以上の参加者については、座る場所を指定するなどして対人間隔を確保している。
- 小学生以上の参加者については、食事のとき以外はマスク着用の徹底を周知している。
- 屋内開催の場合は、窓や扉の開放（常時または頻回）、空気循環器や扇風機の使用等の方法で可能な限りの換気を行なっている。
- 開催当日の運営（会場設営、案内、調理、配膳等）に関わるスタッフの名簿を作成しておく。
- 運営スタッフは、集合時に体温測定（可能な限り非接触体温計を用いる）と健康確認を行っている。体温が37.0℃以上の人は速やかに帰宅させている。
- 当日の運営スタッフは準備段階からマスクを着用すると共に、必要に応じて、石鹸による入念な手洗いや擦込式アルコール消毒液による手指の清潔に努めている。

3 万が一感染者が発生した場合の対処法を決めている

- 所轄の保健所と連絡をする担当者を決めておく。
- 感染者が発生した場合には速やかに保健所に連絡する。
- 保健所の実施する積極的疫学調査に可能な限り協力する。

1～3の24項目すべてにチェックできたら「感染症対策宣言マーク」をご活用いただけます。